

みなかみ町国民保養温泉地計画書
(上牧・奈女沢・湯宿・川古・猿ヶ京・法師温泉)

令和6年3月

環境省

目 次

1 . 温泉地の概要	1
2 . 計画の基本方針	2
3 . 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する 方策	3
4 . 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医 師の配置計画又は同医師との連携のもと入浴方法等の指導ができる 人材の配置計画若しくは育成方針等	9
5 . 温泉資源の保護に関する取組方針	10
6 . 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策	14
7 . 温泉地の特性を活かした温泉の公共的利用増進に関する方策	15
8 . 高齢者、障害者等に配慮したまちづくりに関する計画	19
9 . 災害防止対策に係る計画及び措置	20
添付	
1 . 国民保養温泉地位置図	
2 . 国民保養温泉地区域図	

1 . 温泉地の概要

みなかみ町は、群馬県の北東部、新潟県との境に位置し、谷川岳を代表とする中央分水嶺である三国山脈が連なり、また、この地を水源とする利根川が町を貫流し、本町南部中央部で西から合流する赤谷川を併せて太平洋に注ぎ込んでいる。標高は 300m から 2,000m にわたり、町の面積である 781.08 km² のうちのほとんどは山林が占める。町の北側の山岳地帯は上信越高原国立公園に指定されており、豊かな自然環境に恵まれ、豊富な水資源は首都圏の「水がめ」として重要な機能を果たしている。また温泉資源にも恵まれ、みなかみ町の温泉地は「みなかみ 18 湯」と総称されるように多くの温泉地が存在している。

みなかみ町は、平成 17 年（2005）10 月に月夜野町・水上町・新治（にいほる）村の 2 町 1 村が合併した町で、町名は若山牧水の「みなかみ紀行」に由来する。町内には国民保養温泉地が 2 か所存在し、昭和 54 年 3 月に旧月夜野町の上牧（かみもく）・奈女沢（なめさわ）温泉（2.02 km²）が、ついで平成 11 年 4 月に旧新治村の湯宿・川古（かわふる）・法師（ほうし）温泉（1.26 km²）が指定されている。平成 30 年 5 月、従来の 2 か所の国民保養温泉地を併せ、さらに旧新治村の猿ヶ京（さるがきょう）温泉（2.19 km²）を新たに加えて、あらためて「みなかみ町国民保養温泉地」（5.47 km²）として指定された。

みなかみ町国民保養温泉地は、豊かな自然環境と豊富な温泉資源を活用し、従来から取り組んでいる健康づくりをテーマに、保養・療養型の温泉地づくりを目指す。また、上牧地区には上牧温泉病院があり、医療分野との提携を図るうえでの中核となる施設として位置づけられる。

みなかみ町は古くから関東と新潟をつなぐルートとして機能してきた。この地には 8 世紀末に蝦夷を討伐した坂上田村麻呂にまつわる伝承が伝えられているが、三国峠が文献に登場するのは、さらに下って室町時代の応仁の乱のころ、つまり 15 世紀の終わりごろである。その後、上杉謙信の関東への出兵に際し、三国峠越えのルートが整備され、江戸時代の三国街道へ発展していく。現在は国道 17 号が走り、東側には上越線・上越新幹線及び関越自動車道のトンネルがあり、南北を貫く主要なルートとして機能している。このように古くから交通の要衝として重視され、歴史的・文化的にも様々な遺跡・遺物・文化資源が残されている。

各温泉地も様々な歴史的経緯が存在し、近代になって開発された温泉地がある一方、湯宿（ゆじゅく）温泉のように平安時代の 9 世紀中ごろという開湯伝説を伝えるものもある。また、この地域の温泉の性質は、主に海底の隆起により海水成分を含んだ緑色凝灰岩（グリーンタフ）を通して湧き出したもので、泉質は主に硫酸塩泉を特徴とし、無色透明の優しい肌触りの温泉が多く見受けられる。各温泉地の源泉数は 24 本を数え、うち自然湧出・自噴泉は

10本、総湧出量は毎分1,600を越える。加えて古くから湯治・保養のお客様を受け入れてきた伝統があり、「療養泉」としての効果十分に期待できるものである。豊富な湧出量の温泉に加えて、恵まれた自然環境と静謐で落ち着いた雰囲気の中でゆったり滞在することが可能である。

みなかみ町見取り図（ビューマップ）



2. 計画の基本方針

みなかみ町国民保養温泉地を構成する上牧・奈女沢・湯宿・川古・猿ヶ京・法師温泉は、広く町内に分布し、古くからの歴史を有しつつそれぞれの個性と特徴を備えている。そこでみなかみ町の豊かな自然環境とそこからの恵みである温泉資源を持続的に利用しながら、従来からの療養を目的とした滞在はもちろん、日々のストレスから離れることや健康づくりに寄与し、休日を利用したリフレッシュの場として、首都圏はもちろん日本全国、さらに諸外国からの来訪者を受け入れられるような多様なあり方を提案していくことを基本とし、下記のような事業を行う。

- (1) みなかみ町国民保養温泉地は、みなかみ町の豊かな自然と豊富な温泉を背景に、コネスコエコパークへの登録を契機として自然と共生したまちづくりを進めていく中で、

来訪される方はもちろん地域の住民の健康づくりに寄与すべく、国民保養温泉地としての独自の温泉地づくりのための事業を行う。

(2) みなかみ町国民保養温泉地は、首都圏から近いという地理的な条件を活かし、ウォーキングなどの様々なアクティビティを活用したヘルスツーリズムの取り組みを行っていく。また、上牧温泉病院を核として、医療の代替・補助として温泉を活用した諸事業を行う。

(3) みなかみ町国民保養温泉地は、各温泉地の施設整備等について、それぞれの地域における防災面や利便性を考慮しつつ、地域ごとの自然環境や景観に配慮したものとする。

(4) みなかみ町国民保養温泉地は、各温泉地における源泉の適正な維持管理に努め、各温泉地の特徴を生かしながら持続的な温泉地づくりを目指す。

3. 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する方策

(1) 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の概要

みなかみ町の北部は、中央分水嶺である谷川岳を代表とする三国山脈が東西に連なり、「上信越高原国立公園」に指定されている。また「利根川源流部・燧ヶ岳(ひうちがたけ)周辺森林生態系保護地域」があり、様々な法令等によって厳重に保護されている。一方、みなかみ町は平成20年に「みなかみ・水・『環境力』宣言」を行い、水や森林を初めとする豊かな自然環境を「まもり、いかし、ひろめる」取組を推進してきている。

この地域は夏の降水量も多いが、世界でも有数の豪雪地帯であり、山岳地域では冬期の積雪の影響などにより、急峻な岩壁や露岩地に加え、雪食凹地、氾濫原、河岸段丘などの特徴的な地形や、周氷河地形などの豪雪地特有の地形を形成している。また、標高2,000mに満たない地域にもかかわらず氷河の痕跡も確認されている。これらの特殊な地形・地質や、日本海側と太平洋側の気候条件の移行帯であることなどに起因し、多様で希少な動植物が育まれ、独特の生態系が見られるなどの特徴がある。

以上のことから、みなかみ町は平成29年6月に「ユネスコエコパーク」に登録され、豊かな自然と共生しながら持続的なまちづくりを進めている。

さらに、流路延長322km(日本第2位)、流域面積16,840km²(日本第1位)を誇る利根川の最上流域に位置し、東京を中心とした、人口・経済において世界最大規模である東京都市圏の約8割、3,000万人の生命と暮らしを支える水の最初の一滴を生み出しているまちである。

豊かな自然と豊富な水資源に恵まれたみなかみ町は、温泉も豊富で「みなかみ 18 湯」と呼ばれる温泉地が、町内各地に散在している。またスキーや登山はもちろん、最近ではラフティングやキャニオニング・カヌーなどのアウトドアスポーツが盛んである。

ところで、みなかみ町は関東と越後を結ぶ交通の要衝として古くから機能してきたことがうかがえる。歴史を見れば奈良時代の「利根郡」に「呉桃（奈久留美・なぐるみ）郷」の存在が確認できており、渡来系の人々による馬生産の広がりが類推される。さらに利根沼田地域と魚沼地域における古墳の石室構造の類似性などが指摘されており、すでに山を越えて人とモノの交流が活発だったことが窺える。また、8 世紀末に蝦夷を討伐した坂上田村麻呂に関する伝承や 10 世紀に奥州で活躍した安倍貞任の一族に関する伝承などが伝えられていて興味深い。鎌倉時代に入ると、有名な新田氏の一部が越後の魚沼地域に広がったことが資料から窺える。15 世紀末、室町時代の応仁の乱のころの、文人や僧侶の紀行文の中に三国峠を越えた記述を見出すことができる。戦国時代になると、上杉謙信が関東へ出兵するにあたり三国峠越えのルートが整備されるようになり、後々このルートは上杉・真田・北条各氏の角逐の場となった。豊臣秀吉の小田原攻めの契機となった名胡桃城址は中世山城の姿をそのままに残している。

その後江戸時代において五街道に次ぐ脇往還として三国街道が整備され、越後諸藩の参勤交代のルートや佐渡奉行の赴任経路として利用され、さらに新潟米の関東への流入口として栄えていく。現在は国道 17 号が走り、東側には上越線・上越新幹線及び関越自動車道のトンネルがあり、南北を貫く主要なルートとして機能している。このように古くから交通の要衝として重視され、歴史的・文化的にも様々な遺跡・遺物・文化資源が残されている。

上牧・奈女沢温泉

上牧・奈女沢温泉は月夜野地区に位置する。上牧温泉は上越線上牧駅に隣接し、利根川の両岸に 5 件の旅館と日帰り入浴施設「風和（ふうわ）の湯」、さらに昭和 56 年に開院した上牧温泉病院がある。上牧温泉は大正初期に発見された温泉で、上越線の水上延伸に伴い温泉旅館が開業され湯治・保養客を集めた。また、山下清が逗留したことで知られ、旅館に作品が残されている。

奈女沢温泉は上牧駅の北東 4 km に位置する一軒宿で古くから存在が知られており、明治期から湯治場として利用されてきた。

上牧温泉の西側に大峰山（1,255m）があり、中腹に本州最古といわれる浮島湿原のある大峰沼と県指定の天然記念物モリアオガエルの生息地として知られる古沼がある。近年、上毛高原駅近くはホタルの里生息地として知られ、シーズンには多くの人を訪れている。

上牧温泉



奈女沢温泉



上牧温泉「風和の湯」



上牧温泉病院



湯宿・川古・猿ヶ京・法師温泉

利根川の支流である赤谷川流域を中心とした新治村地区は、国道 17 号沿いに温泉地が散在している。

湯宿温泉はかつて「須川の湯」と呼ばれ、平安時代に遡る仁寿 2 年（852）に須川村の僧侶弘須法師の開湯伝説が伝えられている。戦国時代から江戸時代初期にかけて真田氏との関係が深くなり、薬師堂の再建にも尽力したと伝えられている。現在、近接する赤岩温泉を含めて 5 軒の旅館と 4 か所の共同浴場がある。小さいながらも共同浴場を中心に湯治・療養客を受け入れてきた歴史ある湯治場として知られ、情緒ある街並みと石畳の街路が往時を偲ばせる。

昭和 61 年須川地区に手作り体験施設「たくみの里」がオープンする。地域の生活や文化・伝統工芸などを生かして、訪れた観光客に体験してもらう体験工房 24 箇所が集落の中に点在。平成 8 年に総合施設「豊楽館」（道の駅）がオープンし交流の拠点として人気スポットとなっている。



川古温泉は赤谷川上流の自然の中にある一軒宿。約 250 年前の発見と言われているが詳細は不明である。ぬるめの温泉に長時間入浴することを特徴とし、古くから「川古のみやげは一つ杖を捨て」と詠われてきた効能高い湯治の宿として知られ、旅館 1 軒と下流に別館広河原温泉 1 件がある。

猿ヶ京温泉は、昭和 31 年に相俣ダムの完成で現在地に移った。それまでは赤谷川沿いに湯島の湯、生井林（なまいばやし）の湯（笹の湯）があり、今は湖底に沈んでいる。湯島の湯は元禄年間（17 世紀末）に発見されたと伝えられる。相俣ダムの完成と国道 17 号の開通、さらに苗場スキー場の開設によって多くの行楽客を集めた。現在は 30 数件の旅館・民宿などがあり、2ヶ所の日帰り入浴施設、1ヶ所の共同浴場、350 席の多目的ホールやオートキャンプ場などがある。

法師温泉は江戸時代にその名前が確認され、三国街道を往来する旅人が利用してきたと推察される。明治時代には 5 軒ほどの温泉宿があったとされているが、現在は 1 軒のみである。1981 年から始まった旧国鉄のフルムーンパスのテレビ CM で一躍有名となり、「日本秘湯を守る会」の宿としても著名である。法師川を挟んで建つ木造の建物は「国登録有形文化財」に指定されている。

明治 19 年に内務省衛生局によって編纂された『日本鉱泉誌』によると、湯島・生井林・法師嶺（法師）・新巻（湯宿）・川古の温泉地が確認できる。また、明治 18 年の群馬県管内鉱泉一覧には、法師・笹の湯・湯島・湯宿・川古・奈女沢が記録されている。

いずれにしても、明治期の記録によれば、利根川源流部の山奥の地域ゆえ、湯治客はそれほど多くないことを伝えている。とはいえ、法師が「明治 9 年より 13 年にいたる平均 1 ヶ年凡 1,727 人」とあり、次いで湯宿・笹の湯が 700 人余、さらに湯島が同じく 200 人弱、川古は 30 人程度という記録が残っている。

<p style="text-align: center;">湯宿温泉</p> 	<p style="text-align: center;">川古温泉</p> 
<p style="text-align: center;">猿ヶ京温泉</p> 	<p style="text-align: center;">法師温泉</p> 
<p style="text-align: center;">猿ヶ京温泉「まんてん星の湯」</p> 	<p style="text-align: center;">たくみの里</p> 

(2) 取り組みの現状

昭和 54 年 3 月に上牧・奈女沢温泉が国民保養温泉地に指定され、豊富な温泉と豊かな自然環境を活かした健全な保養地づくりを目的として施設整備と公共的利用増進のための環境整備を行ってきた。その後、平成 10 年 10 月に「ふれあい・やすらぎ温泉地」の指定を受け、河川整備などとともに平成 14 年に日帰り温泉施設である「風和（ふうわ）の湯」をオープンしている。そうしたなか上牧温泉病院は昭和 56 年に開設され、昭和 60 年には人間ドック

を主とする「健診棟」を付設し、恵まれた自然と豊富な温泉を活用して病気の予防と治療を総合的に行っている。

平成 11 年 4 月、湯宿・川古・法師温泉が国民保養温泉地に指定される。豊富な温泉資源と自然環境を守りつつ、さらに歴史と文化に彩られた地域として健全な保養・休養の場を目指した。特に国民保養温泉地に指定されて以後、温泉資源についての知識を深めるとともに、来訪者はもちろん地域住民も参加できるような「温泉を活用した健康づくりウィーク」事業に取り組み、温泉療法医による健康相談や「湯ったりピクス」と呼ぶ入浴体操の指導など様々な取り組みを通じて保健・保養を中心とした活用を推進してきた。みなかみ町合併後は二つの国民保養温泉地は一つの協議会にまとめられ、以後も「温泉を活用した健康づくりウィーク」の取り組みを続けている。

平成 28 年度、みなかみ町への旅行を通じて健康回復・健康増進を図り、健康維持・疾病予防に資する取り組み「みなかみヘルスツーリズム」についてプロジェクトを展開することとなった。「みなかみ町ヘルスツーリズム推進協議会」が組織され、みなかみ町国民保養温泉地協議会も参加している。さらにみなかみ町は同年 6 月に「日本クアオルト協議会」に加盟した。

これより以前、猿ヶ京温泉でも独自の「猿ヶ京ウォーキング・メンタルアップ事業」に取り組んできている。こうした経緯の中で、今回の計画策定にあたり、猿ヶ京温泉をみなかみ町国民保養温泉地に追加し、既存のみなかみ町国民保養温泉地と共にみなかみ町のヘルスツーリズムの展開に参画していくことになった。

(3) 今後の取組方策

みなかみ町は首都圏から近く、新幹線や高速道路を利用すれば東京から 2 時間程度で町内各地に来ることができる。そうした交通の利便性を活かし、豊かで貴重な自然と温泉及び豊富な水資源を基盤に、「ユネスコエコパーク」の理念である人と自然と共生したまちづくりを進めていくなかで、みなかみ町独自のヘルスツーリズムの確立を目指していく。

みなかみ町のヘルスツーリズムへの取り組みは、まずウォーキング中心に進めていくことになるが、みなかみ町内でのモデルとなるウォーキングコースの設定および施設・環境整備を行いつつ定期的なウォーキングイベントなどの開催に取り組む。また、みなかみ町国民保養温泉地協議会では従来からノルディックウォークへの取り組みを続けており、併せて活用していくこととする。

また、従来から実施している「温泉を活用した健康づくりウィーク」事業についても継続して行い、上牧温泉病院とも連携しつつ、温泉入浴についての知識の啓蒙や入浴体操の指導などを来訪者はもちろん住民に対しても行っていくこととする。

以上のような取り組みは、健康な生活を送りたいと考える個人や家族、また学校や企業の福利厚生や研修の場としてみなかみ町に来訪されるお客様を増やすことにつながる。またそれだけでなく、みなかみ町内の住民はもちろん広く周辺地域の住民にも積極的に働きかけ、適度な運動と温泉入浴を組み合わせることで健康寿命を延ばすことになれば、住民の保健福祉にも寄与できるものとする。

4. 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の配置計画又は同医師との連携のもと入浴方法等の指導ができる人材の配置計画若しくは育成方針等

(1) 医師又は人材の配置の現状

みなかみ町では、医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導を行う医師が常駐している。また、群馬県が温泉の利用状況や安全かつ適切な入浴方法、さらに健康増進などに対する提言などを行えるよう養成・認定した資格である温泉アドバイザー、さらに温泉科学・温泉医学についてより高度な知識を有すると認定された上級温泉アドバイザーが施設所有者・観光事業者などに多数存在しており、宿泊者や施設利用者に対して適宜アドバイスを行える環境にある。その氏名及活動の状況等は、以下のとおりである。

医師

氏名	専門分野	活動状況	配置年度
風間 直久	内科	上牧温泉病院にて温泉利用や温泉療養について随時相談対応する。	平成 17 年

人材

温泉アドバイザー・上級温泉アドバイザー

みなかみ町国民保養温泉地内にある各温泉地の旅館・ホテル・民宿などの宿泊施設や日帰り入浴施設において、温泉アドバイザー及び上級温泉アドバイザーが配置されている。

地域	温泉アドバイザー	上級温泉アドバイザー	活動状況	配置年度
上牧・奈女沢	14	4	旅館・ホテル・民宿などの宿泊施設及び日帰り入浴施設などにおいて温泉の利用状況や入浴方法などを安全かつ適正に指導している。	温泉アドバイザーは平成 15 年度、上級温泉アドバイザーは平成 17 年度～。
湯宿	8	2		
川古		1		
猿ヶ京	15	13		
法師	4	2		
計	41	22		

(2) 配置計画又は育成方針等

みなかみ町国民保養温泉地では(1)の医師及び人材の配置を継続していくとともに、温泉に対する知識を有し、適正な入浴方法について指導できる人材を増やしていくために新たな資格講習などを実施していくこととする。

また、上牧温泉病院には 20 数名の理学療法士 (P T) がおり、ウォーキングや水中運動に対する指導や助言が可能な環境にある。今後はみなかみ町国民保養温泉地として積極的に健康づくりに関するイベント等を開催していくことになるが、上牧温泉病院及び理学療法士との協力関係を密にしながら、この地域への来訪者だけでなく地域の住民に対する健康づくりへの取り組みを支援していくこととする。

5 . 温泉資源の保護に関する取組方針

(1) 温泉資源の状況

みなかみ町国民保養温泉地においては、各温泉地で 24 本の源泉があり、全部で 52 軒のホテル・旅館・民宿などがある。また、3ヶ所の日帰り温泉施設があり、それぞれ利用されている。

さらに各温泉地の具体的な状況は以下の通り。

上牧温泉は 4 本の源泉があり、5 軒の旅館及び日帰り温泉施設、上牧温泉病院に利用されている。主にナトリウム・カルシウム - 硫酸塩・塩化物温泉であり、泉温は 26 ~ 45 度となっている。

奈女沢温泉は源泉が 1 本のメタケイ酸含有で 22 度の温泉である。旅館 1 軒がある。

湯宿温泉は 6 本の源泉があり、源泉を利用している 2 か所の共同浴場を除いて、集中管理により 5 軒の旅館及び 3 か所の共同浴場で利用されている。泉質は主にナトリウム・カルシウム - 硫酸塩・塩化物温泉であり、未使用の深代源泉を除いて自然湧出による 42～62 度の高温の源泉である。

赤岩温泉は源泉 1 本。1 軒の旅館が利用している。泉温 31 度のナトリウム・カルシウム - 硫酸塩温泉である。

川古温泉は、3 本の源泉があるが、浜屋の湯のみ 2 軒の旅館が利用している。主にカルシウム・ナトリウム - 硫酸塩温泉で 25～39 度の泉温である。

猿ヶ京温泉には 7 本の源泉がある。地域内の 35 軒の旅館・民宿及び保養施設などに利用されている。そのほかに 2 ヶ所の日帰り温泉施設、1 ヶ所の共同浴場などにも利用されている。泉温は 49～63 度、主にカルシウム・ナトリウム - 硫酸塩・塩化物温泉である。

法師温泉は、27～41 度の泉温の源泉 2 本があり 1 旅館で利用されている。泉質は主にカルシウム・ナトリウム - 硫酸塩温泉である。

N O	源泉	温度	湧出量 (l/min)	泉質	湧出 状況	所有者	利用 施設
上牧温泉							
1	新湯 2 号線	40.1	466.0	ナトリウム・カルシウム-硫酸塩・塩化物温泉	動力揚湯	民間	旅館 3・病院 1
2	大峯の湯	44.6	236.0	ナトリウム・カルシウム-硫酸塩・塩化物温泉	動力揚湯	民間	旅館 1
3	常生館の湯	26.4	7.8	ナトリウム・カルシウム-塩化物・硫酸塩温泉	動力揚湯	民間	旅館 1
4	ホロンの湯	45.3	175.0	カルシウム・ナトリウム - 硫酸塩・塩化物温泉	動力揚湯	みなかみ町	共同浴場・保養所
奈女沢温泉							
1	釈迦の霊泉	22.3	21.2	メタケイ酸含有	自然湧出	民間	旅館 1

湯宿温泉							
1	深代源泉	21.9	2.8	ナトリウム・カルシウム-硫酸塩冷鉱泉	掘削自噴	民間	未利用
2	大滝源泉	42.0	12.1	ナトリウム・カルシウム-硫酸塩温泉	自然湧出	民間	旅館1
3	小泉屋源泉	53.4	15.1	ナトリウム・カルシウム-硫酸塩温泉	自然湧出	民間	自家用
4	小滝源泉	43.1	4.0	ナトリウム・カルシウム-硫酸塩温泉	自然湧出	民間	共同浴場
5	クボ湯	62.6	178.0	ナトリウム・カルシウム-硫酸塩温泉	自然湧出	民間	旅館4 共同浴場
6	洗場	62.8	17.4	ナトリウム・カルシウム-硫酸塩温泉	自然湧出	民間	共同浴場
赤岩温泉							
1	太子の湯	31.5	13.9	ナトリウム・カルシウム-硫酸塩温泉	動力揚湯	民間	旅館1
川古温泉							
1	広河原の湯	25.1	124.0	単純温泉	掘削自噴	民間	未利用
2	浜屋の湯	39.4	715.0	カルシウム・ナトリウム-硫酸塩温泉	掘削自噴	民間	旅館2
3	川古の湯	29.4	6.5	単純温泉	自然湧出	民間	未利用
猿ヶ京温泉							
1	村有2号泉	平成8年より測定不能		単純温泉		みなかみ町	未利用
2	湖城閣源泉	63.6	195.0	ナトリウム・カルシウム-塩化物・硫酸塩温泉	動力揚湯	民間	旅館1
3	共有泉湯島	57.2	660.0	カルシウム・ナトリウム-硫酸塩温泉	動力揚湯	みなかみ町・民間	旅館2・給湯事業
4	町有1号泉	61.5	313.0	カルシウム・ナトリウム-硫酸塩・塩化物温泉	動力揚湯	みなかみ町	給湯事業74件・共同浴場

5	三島源泉	昭和60年より測定不能		単純温泉		みなかみ町	未利用
6	猿ヶ京源泉1号井戸	56.4	420.0	カルシウム・ナトリウム-硫酸塩・塩化物温泉	動力揚湯	民間	町有1号泉と同じ
7	猿ヶ京源泉2号井戸	49.4	204.0	ナトリウム・カルシウム-硫酸塩・塩化物温泉	動力揚湯	民間	
法師温泉							
1	大浴場旭の湯	41.2	339.0	カルシウム・ナトリウム-硫酸塩温泉	自然湧出	民間	旅館1
2	官行の湯	27.5	204.0	単純温泉	掘削自噴	民間	

(2) 取組の現状

みなかみ町国民保養温泉地における各源泉の保護状況であるが、各源泉所有者によって対応は異なっている。年1回群馬県による源泉調査が行われており、源泉の湧出状況及び泉質の状況が調査されている。一方源泉所有者の中には独自の源泉保護手法を用いて源泉のモニタリングを行っている施設がある。

法師温泉や猿ヶ京温泉のほとんどの源泉については、計測機器を使用して源泉の温度・pH・電気伝導度及び湧出量などをモニタリングしている。

(3) 今後の取組方策

現状において、源泉の保護・管理については各源泉所有者によって対応は様々である。日々計測機器を用いて源泉の状況をモニタリングしているところもあれば、整備に係る費用を負担できないがために機器を整備できない源泉がある状況に変わりがない。

今後については、源泉保護の観点から、各源泉のモニタリング体制を強化していくことは重要なことである。源泉の状況により湧出量の測定が困難なものもあるが、特に泉温・pH・電気伝導度などについては計測機器があれば比較的簡単に計測可能であるため、みなかみ町とも連携しながら、令和7年度までに必要な計測機器等を導入し、その後定期的な観測・モニタリングを徹底させていくこととする。

6. 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策

(1) 温泉の利用に当たっての関係設備等の状況

浴用利用のみ

温泉地	源泉数	浴用利用施設までの設備	浴用利用施設数
上牧温泉	4	引湯管・貯湯槽	7
奈女沢温泉	1	引湯管	1
湯宿温泉	6	引湯管・貯湯槽	10
赤岩温泉	1	引湯管	1
川古温泉	3	引湯管	2
猿ヶ京温泉	7	引湯管・貯湯槽	40
法師温泉	2	引湯管	1

浴用及び飲用利用

温泉地	源泉数	浴用・飲用利用施設までの設備	利用施設数
上牧温泉	3	引湯管・貯湯槽	4
奈女沢温泉	1	引湯管	1
川古温泉	1	引湯管	1
猿ヶ京温泉	1	引湯管・貯湯槽	2

(2) 取組の現状

温泉の利用に当たって使用している設備について、現在講じている衛生面での取組の状況は、以下のとおりである。

設備	区分	取組	実施主体
源泉	自主的	源泉表示確認、周辺設備の整理点検	源泉所有者
引湯管	自主的	バルブ、配管等の点検	設備所有者
貯湯槽	条例等	年1回の点検。必要により清掃及び消毒の実施	設備所有者
浴槽	条例等	条例で定める頻度で浴槽水検査の実施(レジオネラ菌)、毎日の清掃	設備所有者

飲泉施設	自主的	年1回の一般細菌、大腸菌群等の検査	設備所有者
設備周辺	自主的	毎日の清掃実施	設備所有者

(3) 今後の取組方策

温泉を衛生的に良好に保つため、実施主体と調整の上、(2)の取組を継続するとともに、それらに加え、以下の取組を進める。

設 備	区 分	取 組	実施主体
貯湯槽	自主的	年1回の点検・清掃及び消毒の実施	設備所有者
飲泉施設	自主的	年2回の一般細菌、大腸菌群等の検査	設備所有者

7. 温泉地の特性を活かした公共的利用増進に関する方策

(1) 温泉の公共的利用の状況

みなかみ町国民保養温泉地は、各温泉地においてその成立、展開の状況が異なり一様ではない。それぞれの温泉地における温泉利用の状況は以下のとおりである。

過去3年間の温泉の利用者数（単位：人）

	令和元年度			令和2年度			令和3年度		
	日帰	宿泊	合計	日帰	宿泊	合計	日帰	宿泊	合計
上牧温泉	34,020	22,680	56,700	21,294	14,196	35,490	26,142	17,428	43,570
奈女沢温泉	休	業	中	休	業	中	休	業	中
湯宿温泉	3,120	6,630	9,750	1,677	3,563	5,240	1,385	2,995	4,380
川古温泉	1,199	3,485	4,684	480	2,615	3,095	335	3,004	3,339
猿ヶ京温泉	17,908	71,632	89,540	5,946	23,784	29,730	23,740	86,660	110,400
法師温泉	1,896	20,487	22,383	754	15,005	15,759	988	14,984	15,972

直近1年間（令和3年度）の月別温泉利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月

上牧温泉	計	3,620	2,880	2,580	2,780	4,460	2,910	1,480	4,450
	日帰	2,172	1,728	1,548	1,668	2,676	1,746	888	2,670
	宿泊	1,448	1,152	1,032	1,112	1,784	1,164	592	1,780
奈女沢温泉	計 日帰 宿泊		休			業			
湯宿温泉	計	420	400	760	190	520	530	240	210
	日帰	134	128	243	61	166	170	77	67
	宿泊	286	272	517	129	354	360	163	143
川古温泉	計	355	278	245	282	239	232	332	360
	日帰	55	9	31	59	17	0	64	30
	宿泊	300	269	214	223	222	232	268	330
猿ヶ京温泉	計	11,070	8,400	3,280	10,810	9,840	7,750	10,910	16,400
	日帰	2,214	1,680	2,316	2,162	1,968	1,550	2,182	3,280
	宿泊	8,856	6,720	964	8,648	7,872	6,200	8,728	13,120
法師温泉	計	1,197	982	829	1,163	1,320	1,154	1,776	2,053
	日帰	0	0	92	78	38	110	154	134
	宿泊	1,197	982	737	1,085	1,282	1,044	1,622	1,919

		12月	1月	2月	3月	計
上牧温泉	計	3,980	6,300	4,080	4,050	43,570
	日帰	2,388	3,780	2,448	2,430	26,142
	宿泊	1,592	2,520	1,632	1,620	17,428
奈女沢温泉	計 日帰 宿泊		休		業	
湯宿温泉	計	180	570	220	140	4,380
	日帰	58	182	54	45	1,385
	宿泊	122	388	166	95	2,995
川古温泉	計	320	292	164	240	3,339
	日帰	39	16	0	15	335
	宿泊	281	276	164	225	3,004

猿ヶ京温泉	計	23,300	4,150	2,670	1,820	110,400
	日帰	4,660	830	534	364	23,740
	宿泊	18,640	3,320	2,136	1,456	86,660
法師温泉	計	1,708	1,186	983	1,621	15,972
	日帰	141	88	51	102	988
	宿泊	1,567	1,098	932	1,519	14,984

取組の現状

みなかみ町国民保養温泉地において、温泉の公共的利用の増進を図るため現在行っている取組の状況は以下のとおりである。

対象区域	取組の概要	実施主体
温泉を活用した健康づくりウィーク	国民保養温泉地での温泉療養に対する啓蒙や健康相談、入浴体操の指導、自立体力検定などを行ってきた。また、ノルディックウォーキングの講習会を実施。	みなかみ町国民保養温泉地協議会・みなかみ町観光協会
みなかみ 18 湯	申請温泉地を含む町内にある 18 湯を広く PR している。「うるおい日本プロジェクト」主催、環境省・観光庁後援 2016 年温泉総選挙においてリフレッシュ部門 1 位受賞。	みなかみ町みなかみ町観光協会
町内全域	自然と人間社会が共生する持続的なまちづくりテーマに、平成 29 年に「みなかみユネスコエコパーク」が国内 9 か所目として登録された。温泉も自然の恵みとして持続的な利活用を推進。	みなかみ町
町内全域	ヘルスツーリズムの推進。多様な温泉施設、豊かな自然環境、各種アクティビティの健康に寄与する地域資源を最大限に活用しながら、健康回復・維持・増進を図るみなかみ独自のメニュー開発に取り組む。	みなかみ町
猿ヶ京温泉	赤谷湖上花火大会・上杉謙信武者行列などの地域イベント開催。	猿ヶ京温泉まつり実行委員会 みなかみ町観光協会

法師・猿ヶ京・川古	上信越高原国立公園内にある、三国山・平標山・仙ノ倉山・万太郎山への登山口にあたる。自然公園法による規制。	環境省群馬県 みなかみ町
-----------	--	-----------------



(2) 今後の取組方策

さらに温泉の公共的利用の増進を図るため、温泉の適正な利用を進めるとともに、現在実施している環境の保全、環境配慮への取り組みの強化に努めながら、自然資源や歴史・風土・文化といった資源を保全・活用した保養・休養・療養の場として、実施主体と調整の上、(2)の取組を継続するとともに、それらに加え以下の取組を進める。

取 組	実施主体
群馬県温泉アドバイザー及び上級温泉アドバイザーとは別に新たな温泉に関する資格講習を行い、みなかみ町の温泉について説明し、なおかつ適正な入浴方法を指導できる人材を育成する。	みなかみ町観光協会・みなかみ町・みなかみ町商工会
ウォーキングイベント（ノルディックウォーキングを含む）や水中運動の講習会、自立体力検定などの開催。	みなかみ町・みなかみ町観光協会・みなかみ町社会福祉協議会・上牧温泉病院
地域の歴史や自然を活かし伝えるガイドの養成。	みなかみ町観光協会（観光ガイド協会・歴史ガイドの会）・みなかみ町
外国人観光客の誘致・受入環境整備の推進。（外国語併記の看板・チラシ、Wi-Fi 環境、トイレ改修、カード決済システムなど）	みなかみ町観光協会

8. 高齢者、障害者等に配慮したまちづくりに関する計画

(1) 公共の用に供する施設の状況

公共の用に供する施設の状況は、以下のとおりである。

区 分	施 設
公有施設	<ul style="list-style-type: none"> ・道路（国道 17・291 号線）、県道（61・261・270 号線） ・遊歩道（猿ヶ京 1 施設） ・オートキャンプ場（猿ヶ京 1 施設） ・日帰り入浴施設（上牧 1、猿ヶ京 5 施設） ・カルチャーセンター（上牧 1 施設） ・農村環境改善センター（湯宿 1 施設） ・体育館（上牧 1 施設） ・劇場（猿ヶ京 1 施設） ・公園（猿ヶ京 3 箇所） ・屋内ゲートボール場（猿ヶ京 1、湯宿 1 施設） ・テニスコート（猿ヶ京 1 施設）
私有施設	<ul style="list-style-type: none"> ・診療所（湯宿 1 施設）・温泉病院（上牧 1 施設） ・旅館（上牧 4・奈女沢 1・湯宿 5・川古 2・猿ヶ京 35・法師 1 施設） ・体育館（猿ヶ京 5 施設） ・飲泉所（上牧 4、猿ヶ京 2、川古 1 施設）

(2) 取組の現状

高齢者、障害者等に配慮したまちづくりのため、現在行っている取組の状況は、以下のとおりである

区分	施設	取 組	実施主体
公有施設	道路	散策できる環境を整備するため、極力歩道を確保するとともに、段差解消やベンチの設置を行っている。	みなかみ町
	公園	道路からの進入路の段差解消や敷地内の手すり及びスロープの設置を行っている。	みなかみ町
	建築物	旅館、日帰り入浴施設等における館内の段差解消を図るとともに、これが困難な浴室等に手すりを設置している。	みなかみ町
私有施設	建築物	旅館等の宿泊施設において、段差の解消を図るとともに、これが困難な浴室等に手すりを設置している。	施設所有者

(3) 取組方策

さらに高齢者、障害者等に配慮したまちづくりを図るため実施主体と調整の上、(2)の取組を継続するとともに、それらに加え以下の取組を進める。

区分	施設	取組	実施主体
公有施設	道路	散策できる環境を整備するため、案内図を作成し、休憩所とベンチ等を設置する。 外国人観光客への三ヶ国語表示（英語・中国語・日本語）の案内板の設置を推進する。	みなかみ町
	公園	歩行箇所の段差解消を図るとともに、転落防止の柵や手すりなどの整備を行い、安全確保に努める。 外国人観光客への三ヶ国語表示（英語・中国語・日本語）の案内板の設置を推進する。	みなかみ町
	建築物	館内のバリアフリー化を推進し利用しやすい施設を目指す。 外国人観光客への三ヶ国語表示（英語・中国語・日本語）の案内板を推進する。	みなかみ町
私有施設	建築物	館内の手すり及び身障者用トイレの設置を行い利用しやすい環境を整備の協力を依頼する。 外国人観光客への三ヶ国語表示（英語・中国語・日本語）の案内看板の設置の協力を依頼する。	施設所有者

9. 災害防止策に係る計画及び措置

(1) みなかみ町の地勢及び災害の発生状況

新潟県と境を接する群馬県の最北端に位置し、谷川岳、平ヶ岳、三国山などで県境を画している。また、首都圏から直線距離で約150kmの位置にあり平成17年10月に利根郡月夜野町、水上町、新治村の合併により誕生した町で面積は781.08km²と広大で、群馬県全体に対して12.3%を占めている。地目別に見ると、全体の36.0%が山林原野であり、3.4%が農地、0.9%が宅地、59.7%がその他となっている。本町は谷川岳に象徴されるように、面積の大部分が山岳で占められて、谷川連峰に源を発する利根川、赤谷側は町の中心部で合流し関東平野を経て太平洋へと注いでいる。このような地形から、利根川の源流地域として7つのダム

が建設され、東京をはじめとする首都圏の経済、生活を維持する水源地帯となっている。地域の標高は、300～2,000m級の山岳にまでわたり、山間地としての特殊性が伺え、このような地勢は、地域における産業や生活面などに様々な制約を与えているが、山岳、森林、高原、湖沼、河川、渓谷等による変化に富んだ、スケールの大きい自然環境を形成している。

過去の災害と被害

発生年月日	種別	名称等	規模	被害内容
昭和 58 年 7 月 22 日	風水害	奥利根豪雨	局地的豪雨 250 mm	午後 1 時頃から局地的豪雨に見舞われ旧水上・片品地域において床上浸水 1 棟、床下浸水 15 棟、山崩れ 16 箇所、河川損壊 37 箇所、道路損壊 51 箇所、死者 3 名。
平成 16 年 10 月 23 日	地震	新潟県中越地震	M6.8 沼田市震度 5 弱	本町での被害報告なし。
平成 17 年 ～ 18 年	豪雪		最深積雪 藤原 301 cm、 幸知 275 cm	12 月 18 日～19 日冬型の気圧配置が強まり、大雪となりその後も断続的降り続け、住宅や学校施設の損壊、除雪作業中の事故が多発する。 12 月 28 日豪雪対策本部を設置、県職員 4 名派遣。 1 月 15 日自衛隊災害派遣要請 50 名来町し除雪作業に当たる。
平成 23 年 3 月 11 日	地震	東北地方太平洋沖地震	M9.0 沼田市震度 5 強	本町での被害報告なし。
平成 27 年 7 月 30 日	豪雨		局地的上牧 45 mm/h 積算雨量 136 mm	局地的豪雨により奈女沢川が増水。道路が冠水し孤立したため自衛隊員による宿泊者の避難誘導を行う。奈女沢温泉の浴槽土砂が流入し休業を余儀なくされる。

(2) 計画及び措置の現状

みなかみ町において現在、災害防止に関し策定している計画及び講じられている措置は、以下のとおりである。

計画又は措置	計画又は措置の概要	実施主体
急傾斜地崩壊危険箇所の指定	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律に基づき、急傾斜地崩壊危険箇所に指定され、地域防災計画において、区域ごとに警戒避難体制に関する事項を策定。(湯宿・猿ヶ京・川古・法師・上牧・奈女沢)	群馬県
地すべり防止区域の指定	猿ヶ京・湯宿地区の一部の地域について、地すべり防止区域に指定され、地すべり等防止法に基づき、対策工事を実施済。	群馬県
地域防災計画	災害対策基本法に基づき町長が策定。区域ごとに警戒避難体制に関する事項を策定。災害発生時の迅速な情報収集。	みなかみ町
自主的な取組	自治消防団や地区住民を中心とした災害時の協力体制の確立。	自治会 地域住民

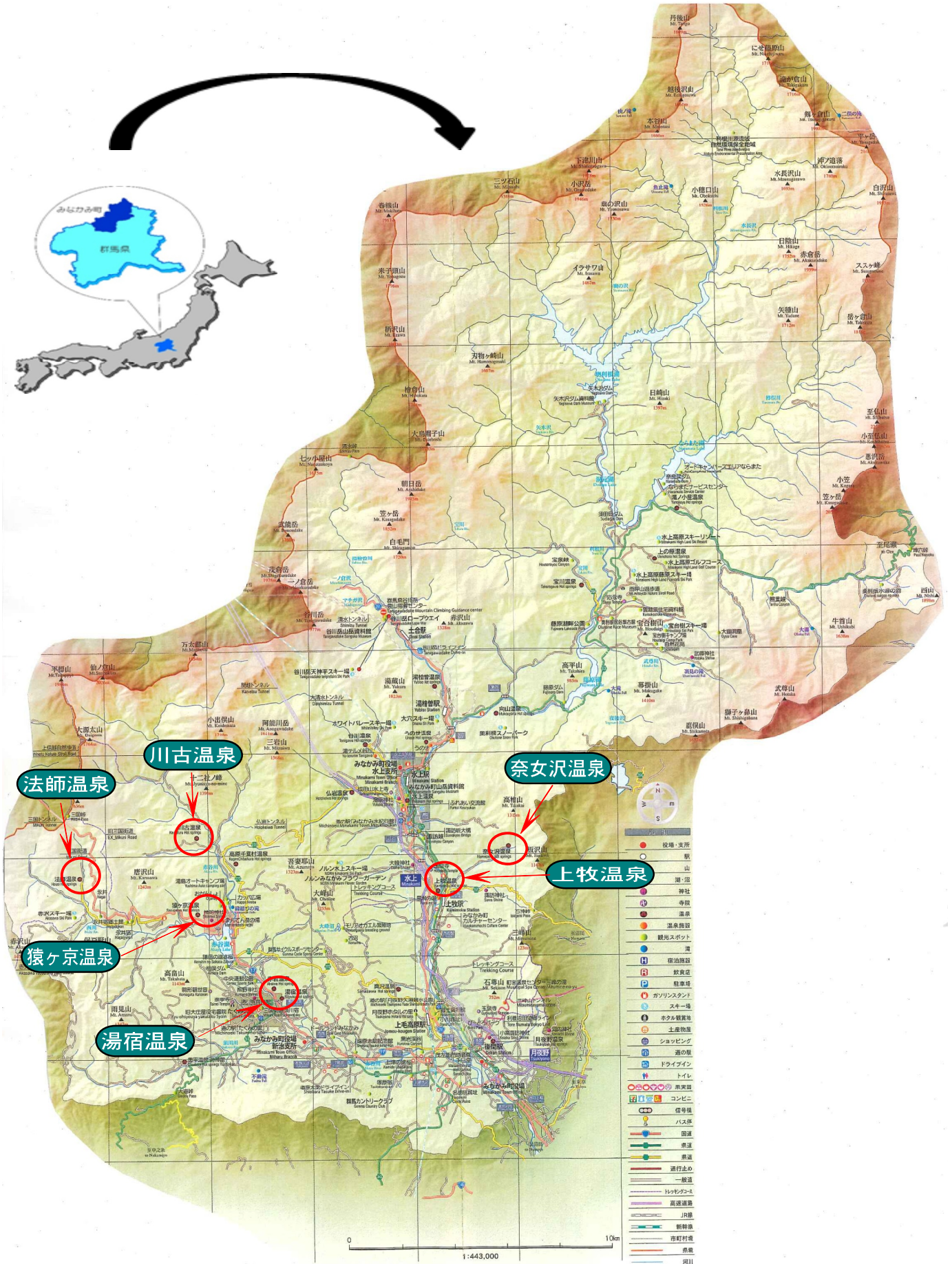
(3) 今後の取組方策

さらに災害の防止を図るため実施主体と調整の上(2)の計画及び措置に基づく取組を継続するとともに、それらに加え以下の取りくみを進める。

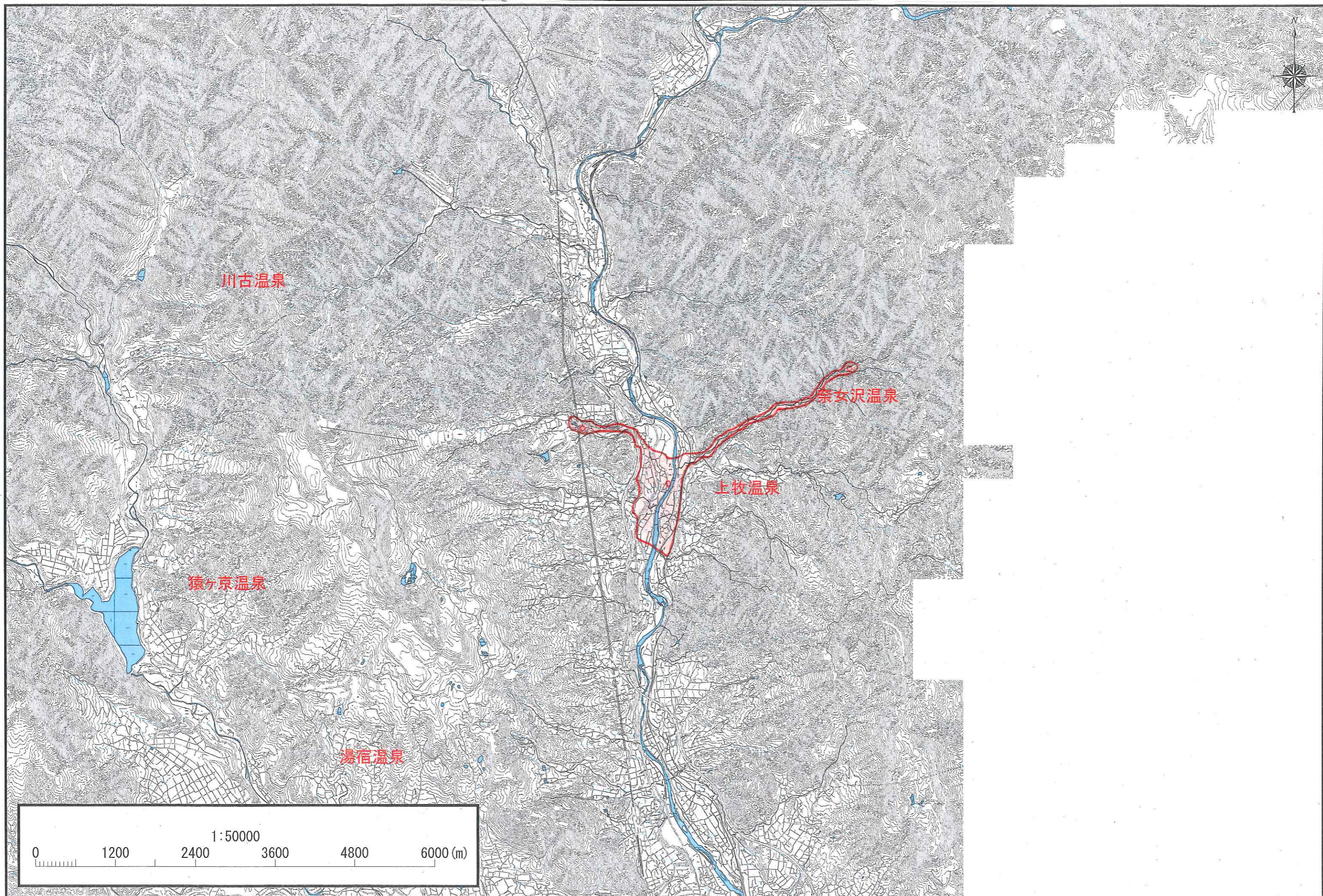
取組	実施主体
現在、地域防災計画において、災害発生時の迅速な情報収集、携帯電話網を活用した情報配信システムによるアプリ配信等を利用した情報提供を行っている。今後も高齢者、障害者等への迅速で正確な情報提供によるスマートフォン利用の促進、実情に応じた計画の見直しを実施する。	みなかみ町
住民に対して、危険箇所や避難場所、緊急時の連絡先などを記載したハザードマップの配布は進んでいる。今後温泉施設利用者への周知や避難誘導訓練の定期開催を推進する。 施設の所有者等が利用者の避難を確保し、施設への浸水を防止する自主的な取組を促進するための措置を講ずるよう努力する。 外国人旅行者等避難誘導の際土地勘の無い方・言語など配慮を必要とする来訪者への情報伝達体制の整備に努める。	みなかみ町 各施設所有者

みなかみ町国民保養温泉地位置図

(上牧・奈女沢・湯宿・川古・猿ヶ京・法師温泉)



みなかみ町国民保養温泉地計画区域図（上牧・奈女沢温泉）



みなかみ町国民保養温泉地計画区域図（湯宿・川古・猿ヶ京・法師温泉）

